

AOI 通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
December 2007 No.48



I N D E X

対談：礒山雅×野平一郎
J.S.バッハ：《平均律》の世界

AOI Concert Information

この1曲：W.A.モーツァルト

オペラ《ドン・ジョヴァンニ》、《コシ・ファン・トゥッテ》

レビュー：三輪真弘

クロード・ドラングル

サクソフォン・ライブ“Quest”

「野平一郎による
《平均律》ルネサンス」です。—— 礒山雅



礒山雅 Tadashi ISOYAMA
東大文学部美学芸術学専攻、同大学院修了。国立音大教授。専攻は音楽美学・西洋音楽史、とりわけバッハの研究。「毎日新聞」に音楽批評を執筆、また大阪・いずみホール音楽ディレクター。著書に『バッハ＝魂のエヴァンゲリスト』（第1回辻莊一賞）、「モーツァルト あるいは賢を得た時間」、「マタイ受難曲」（第9回京都音楽賞研究評論部門賞）など。



対談 礒山雅

(日本音楽学会会長)



野平一郎

(作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI芸術監督)

2008年3月20日、静岡音楽館AOIの野平一郎芸術監督が、ピアノ、チェンバロ、オルガンによるJ.S. バッハの《平均律クラヴィーア曲集》をAOIで演奏します。AOIで全48曲を録音したCDが、この12月に発売されました。CDでは部分的にコンピュータも使用し、「国境なき《平均律》」を目指しました。レコーディングを終え、また新たにコンサートに向かう野平一郎と、『バッハ＝魂のエヴァンゲリスト』『マタイ受難曲』『バッハ カンタータの森を歩む』などの著者、日本のバッハ研究の第一人者である礒山雅さんが、《平均律》、そしてバッハの魅力について語りあいました。

野平一郎(N)・・・僕がバッハの演奏にのめり込むことになったのは、あるとき礒山先生に《ゴルトベルク変奏曲》を弾いてみたら、と勧められたのがきっかけです。それまで、現代作曲家がなぜ、といわれながらもベートーヴェンのピアノソナタに集中して取り組んでいて、バッハを避けていたわけではなかったのですが、それ以来バッハは自分にとってもっときちんと向き合ふべき存在になりました。あれがなければ今回の《平均律》もなかった。

礒山雅(I)・・・私は初めから直感的にバッハは野平さんに相応しい音楽家だと思っていました。バッハの音楽はたんに音のイメージだけでなく、非常に緻密な構成があつて、論理的、数学的、幾何学的な性格があるので、そういったものを認識、把握して演奏することが大事です。だけど現実には、バッハをピアノで演奏することが訓練のひとつ、ステップのように扱われて、音楽の真価が十分に反映されないことが多いの

ではないか。本当の演奏は、野平さんのように作曲家としての眼と演奏者としての腕を兼ね備えた人によつて初めて可能になるのだと思います。バッハ自身がそういう大作曲家にして大演奏家であつたし、作品にはそれが不可分にあるわけですから。だから《ゴルトベルク》を演奏されるというのは、極めて自然なりゆきだと思いました。

N・・・《ゴルトベルク》から《平均律》へと進んで、これも魅力的な、という言葉では言い表せないとにかく24の調すべてがあり、あらゆる調に転調し、主題そのものも24の調があつて初めて可能になるものがいっぱいある。シヨハンもシオスタコヴィイチもヒンデミットも1度は試みたけれど、バッハはそれを生涯に2度も試みた。しかもそれは発展、進化し、ひとつとして同じものがない。これはもう驚嘆以外のなにものでもない。



I・・・バッハは24すべてを作曲しないと気が済まなかったんですね。作曲しやすい調から始めたにしても、いちばん最後まで行つて、反対のほうから還ってくる、宇宙すべてを歩きつくすような徹底した感覚があります。また、第1巻と第2巻の違いというものがだんだん見えくると、第2巻に向かつてバッハが展開していった多様性が、極めて印象的に思えます。

N・・・今回のCDのブックレットに「過去、現在、未来がこれだけはつきりしている作品もめずらしい」というようなことを書きましたが、バッハの「現在」にはそれ以前の遺産、多彩な「過去」が集約されて、それがバッハに至る歴史の長い射程に投げ出されている。それこそ、いい、こんな曲集はほとんどない。

I・・・そうですね。当時、非常に革新的な意味を持っていたけれど、すべてを新しくするのではなく、そのひとつひとつに伝統的な音楽を幅広く採り入れながら、曲集全体とし

ては、すごく斬新なコンセプトを持っている。そういう《平均律》の画期的な性格というのは、実は日本では、いぶん早くから気づかれていたようです。最近、日本のバッハの受容史を研究していますが、明治から大正にかけて、バッハについて書かれたなかで、《平均律》が最高傑作である、音楽芸術の真の宝だ、と、突出して絶賛されている。でも、いまではそれが「教材」として定着してしまつたことで、そんなかつての新鮮な感覚が薄らいで、《平均律》にとくに光をあてる、ということがあまりなくなつてしまつたのではないのでしょうか。だから今回《平均律》の傑出した性格を浮き彫りにしようというのは、私としてもとても嬉しいんです。

N・・・確かに《ゴルトベルク》は、いろんなアプローチがありますが、これほどの傑作なのに《平均律》は意外と数が少ない。《平均律》にはカンタータもオーケストラもトリオソナタもすべてがある。仮説として、この曲はチェンバロを想定した、この曲はオルガンを想定

したということが言われていますが、自分としてはすべてが納得できるものではないので、今回3つの楽器を使うのは、そうした仮説を実証しようとするものではないのですが……。

I・・・バッハは晩年に至るにつれて「楽器を超える」という性格が強くなつて、それに、バッハの時代にはまだピアノという楽器は存在していないので、ピアノであることは決定的なことではないわけです。だから現代では、チェンバロもピアノもオルガンも使う、コンピュータも含め、それは効果的だと思います。大事ななのは音楽のコンセプトなんです。

N・・・コンサートではコンピュータは使いませんが、CDでは数曲——ほんととはもつと遊びたかつたんですけれど(笑)、これは簡単なことではなかった。「編曲」はまたたくしていませんが、バッハの音楽を壊してしまつてはつまらない、それをきちんと活かして、なおかつ別の意味を持つようなものに変容していく、

そのためには、バッハに匹敵するほどの強いアイデアが加わらなければだめなんです。

——ここで録音の一部を聴く。第1巻第1番ハ長調 前奏曲とフーガ。コンピュータで加工されたチェンバロでの前奏曲に続いてピアノでの演奏。

I・・・いやあ、ものすごく自由で……その自由というのは挑戦的な自由ですね。いままで自分が知っている野平一郎とはまた、歩超えた感じで、自由に愉しく弾いておられる。



《平均律》、これはもう驚嘆以外のなにものでもない。—— 野平一郎

野平一郎 Ichiro NODAIRA
東京芸大、同大学院を経て、パリ国立高等音楽院に学ぶ。イティネレル、IRCAMにおいて、電子音響音楽やコンピュータ音楽を学ぶ。数多くの委嘱作品があり、著名なアンサンブルやソリストたちによって演奏、放送され、主要作品はアンリ・ルモワナ社(パリ)より出版。作曲、演奏の両面で受賞多数。1990～2002年、東京芸術大学助教授。静岡音楽館AOI芸術監督。

【第1期】

- 5/23(金) ロシアの音楽／オーケストラを聴こう
東京交響楽団 チャイコフスキーのタベ
清水和音(ピアノ)、大友直人(指揮)、東京交響楽団
会場:静岡市民文化会館 大ホール
P.I.チャイコフスキー:歌劇《エウゲニー・オネーギン》op.24 より〈ボロネーズ〉
ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23
交響曲第6番《悲愴》ロ短調 op.74
- 6/12(木) **池辺晋一郎が贈る「映画音楽の愉しみ」**
映画のクラシック音楽
W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲第21番 長調 K.467 より 第2楽章
A.ヴィヴァルディ:マンドリン協奏曲 長調 P.134 RV.425
G.マーラー:交響曲第5番 嬰ハ短調 より 第4楽章 アダージェット
日本の映画音楽
早坂文雄:「七人の侍」
武満徹:3つの映画音楽「ホゼー・トレス」「他人の顔」「黒い雨」
池辺晋一郎:「スパイ・ゾルゲ」「うなぎ」ほか
- 6/24(火) **慳本大進(ヴァイオリン) コンスタンチン・リフシツツ(ピアノ) デュオ・リサイタル**
- 7/13(日) **シューベルトの午後**
田部京子(ピアノ)、AOI・レジデンス・クワルテット、
吉田秀(コントラバス)
F.シューベルト:弦楽四重奏曲第14番《死と乙女》ニ短調 D.810
五重奏曲《鱒》イ長調 op.114, D.667 ほか
- 7/23(水) **高橋アキ ピアノ・コレクション with 田中泯(ダンス)**



photo:Matthias Creutziger



【第2期】

- 9/20(土) **第13回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート**
鍵盤楽器、管楽器、邦楽、アンサンブル
- 10/ 3(金) **ハーゲン弦楽四重奏団 ベートーヴェンのタベ**
L.V.ベートーヴェン:弦楽四重奏曲第16番 長調 op.135
第11番《セリオーソ》ヘ短調 op.95
第14番 嬰ハ短調 op.131
- 10/18(土) **雅楽《秋庭歌》**
- 10/23(木) **レイフ・オヴェ・アンスネス ピアノ・リサイタル**
- 11/16(日) **ロシアの音楽**
ロシア・アヴァンギャルドとその周辺
「それは、ロシアから始まった」
野平一郎(ピアノ)、AOI・レジデンス・クワルテット
A.スクリャービン:ピアノ・ソナタ第9番《黒ミサ》op.68
I.ストラヴィンスキー:3つの小品
N.A.ロスラヴェッツ:弦楽四重奏曲第3番
D.ショスタコーヴィチ:ピアノ五重奏曲 ト短調 op.57 ほか
- 12/12(金) **椎名雄一郎 オルガン ランチタイム・コンサート**
- 12/23(火・祝) **子どものためのコンサート**
クリスマス★コンサート《くるみ割り人形》



@photo:Requina Recht DG

@photo:Fowler EMI classics



2006/12/24 静岡音楽館AOI

【第3期】2009

- 1/7(水) **ニューイヤー・コンサート ベルリン・フィル八重奏団**
- 2/5(木) **幸田浩子(ソプラノ) 野平一郎(ピアノ) ランチタイム・コンサート**
- 3/1(日) **子どものためのコンサート／シリーズ・若い翼**
若い作曲家から子どもたちへのプレゼント



チケット発売	【第1期】(5/23～7/23)……………3/8(土)より発売	会員優先発売	3/1(土)～7(金)
	【第2期】(9/20～12/23)……………7/12(土)より発売	会員優先発売	7/5(土)～11(金)
	【第3期】(2009 1/7～3/1)……………11/8(土)より発売	会員優先発売	11/1(土)～7(金)

*都合により内容を変更する場合があります。

からの視点が提示されて、というふうに絶えず変化があつて、同じことというのがない。ある塔の映像にたとえれば、初めはその頂が映つていて、カメラが下のほうへずーっと移動して、いろんなフォーカスがあり、最終的に塔の全体像が現れる、というような…。

N…あ、そういう視覚的なイメージは確かにあるかもしれない。

I…演奏者が演奏しようというとき、あるひとつの角度から作品を捉えようとするわけですが、そうではなく、全体のバースペクティヴを持つたうえで、絶えず新しく現れる音に敏感に反応していく、これはやはり相対的に音楽が見えていないとできない。演奏するたびに違つてくるんじゃないですか？

N…CDとコンサートでも違ったものになると思います。CDではチェンバロで弾いた曲をコンサートではピアノで弾く、ということもある。



*

るかもしれませんが。自分の性格なのかな、音楽家つて、決めてしまつてはだめなんだそこで終りになつてしまふのではと思つています。

I…それはバッハそのものです。私はバッハに柔軟性をすごく感じているんです。一般的にバッハというと、「こうあるべき」という不動の印象がありますが、宗教曲でも《平均律》でも、実はバッハは柔軟な発想を持つていて、だからその主題の造形も展開も多様に、まったく違うものを考えることができた。たとえば《フランドンフルク協奏曲》は、同時代のヘンデルやコレリらの合奏協奏曲と比べて考えられないほど一曲一曲がまったく違う。絶えず新しい音の世界をきり拓く、というのはバッハの精神そのもので、でもそれは案外いままで気づけなかった重要なことなのかもしれないですね。

N…そうですね、バッハの演奏には柔軟性が必要です。僕のバッハの基本はモダンにあるんでしょけど、それに囚われることなく、テクストからしぜんに読み出るものを素直に表したい。自分がいまそういう段階にあるのかもしれないが。

I…それは大賛成ですね。結局あるパターン化された解釈というのは歴史的にいろいろあると思いますが、バッハの場合はそうではなく、常に自由にひとつひとつ新しく発想することが大事だと確信しています。「こうあるべき」という固定観念は、むしろバッハの音楽にまだ距離があるから生まれるのではないかと、もしバッハの音楽と本当に一体化できれば、そういうことはなくなつて、もっと自由になれる瞬間があるのではないかと思います。いま私の問題意識としても、これまでピアノの領域で伝統的に行われてきたこと、古楽が行つてくることとの距離を少し埋めていかなければならないと感じています。

N…弦楽器では奏法と楽器の問題でモダンとバロックにいろんな歩みがありますが、鍵盤楽器はピアノとチェンバロのあいだを模索することができない。今回その両方の楽器を使うことである種の「凸凹感」が出てきてしまつけれど、僕はむしろその「凸凹感」を増幅してもいいかな、と思つています。

I…「凸凹」こそ「バロック」(註:原義は「歪

INFORMATION

いままでにない、
この時代にしかできない《平均律》!
CD、発売中!

野平一郎 plays 平均律クラヴィーア曲集

野平一郎(ピアノ、チェンバロ、オルガン、キーボード) 仲井朋子(コンピュータ)

J.S.バッハ:平均律クラヴィーア曲集
第1巻 BWV846～869 (WWCC-7562～3)
第2巻 BWV870～893 (WWCC-7564～5)

各¥4,500(税込)
デジタル録音:2007年7月、10月/静岡音楽館AOI
プロデュース:静岡音楽館AOI
制作:ライブノーツ



AOIほか、全国主要CD店で
お問い合わせいただけます。

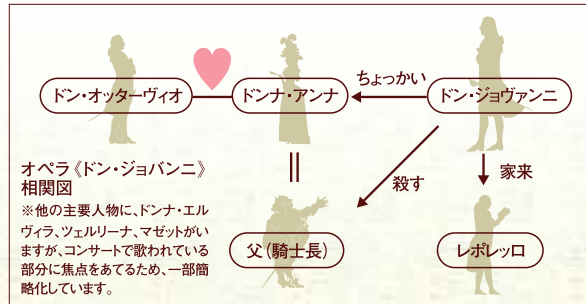
N…まあなんとかピアノも極めたいなという道程のなかで今回の《平均律》は重要な一歩だったし、また、バッハを知るうえでいろいろなことを発見できた旅でした。今後の自分のレパートリーとして、バッハももっとやつていきたいですね。コンサートもぜひがんばりたいと思います。

思います。

W.A.モーツァルト オペラ《ドン・ジョヴァンニ》、《コシ・ファン・トゥッテ》

ニューイヤー・コンサートの楽しみは何と言ってもアリア! 美しい歌声だけでも充分感動しますが、オペラの筋書き、歌われる場面を知っていればより楽しめます。モーツァルトは生涯で21作のオペラを作曲しました。その中で特に人気の四大オペラが、《ドン・ジョヴァンニ》《フィガロの結婚》《魔笛》《コシ・ファン・トゥッテ》。名前は聞いたことがあるけど、一体どんな話だっけ…、という方!!! 1/9のニューイヤー・モーツァルト・ガラ・コンサートで歌われるアリアをここでご紹介しましょう。

タイトル「ドン・ジョヴァンニ」はこのオペラの主人公の名前。簡単にいえば女つらしの度が過ぎ、最後は天罰を受ける、というストーリーです。女なら誰でもいいドン・ジョヴァンニ。ドンナ・アンナへの夜這いに失敗したうえ、娘の悲鳴を聞きつけた父(騎士長)を殺めてしまいます。しかし彼の素行は相変わらず。前にだました女に再び声をかけたり、結婚式の途中の村娘に手を出したりする始末……。そうこうするうち、ドン・ジョヴァンニと入れ替わり女の相手をさせられていた家来レポレッコは皆に吊るし上げられ、ついにすべて主人の仕業だったのだと打ち明けます。するとアンナの婚約者ドン・オッターヴィオが、



「騎士長の死もドン・ジョヴァンニの仕業に違いない、これまでの数々の悪行を訴え彼の非を明らかにすべきだ!」と訴えます。そして父を失った(恋人を慰めて)と歌います。しかしオッターヴィオは、傷ついたアンナの悲しみを理解しつつも、死んでしまった父よりも自分の愛に伝え早く結婚してほしいと訴えます。アンナは彼の訴えに〈ひどい女ですって?…いいえ、いとしいあなた〉と応えます。愛を軽んずるドン・ジョヴァンニと対照的に、アンナとオッターヴィオ2人の愛の美しさが光ります。ドン・ジョヴァンニの結末は、石像の姿で現れた騎士長

によって、地獄に引きずり込まれついに死んでしまいます。レポレッコからドン・ジョヴァンニの顛末を知った皆は、それぞれの生活に戻り、「悪事をするもの最期は…」と歌い幕を閉じます。

「女はみなこうしたもの」という意味の《コシ・ファン・トゥッテ》は、何やら教訓めいていませんか。老哲学者のドン・アルフォンソが、召使のデスピーナと組んで、2組のカップル、フィオルディリージ(姉)とグリエルモ、ドラベッラ(妹)とフェランドの愛の絆を試すために、カップルを入れ替える賭けをします。最初は頑なに身持ちをよくしていた女たち、自分たち恋人は絶対と自信満々の男たち。変装して別々の女に言い寄る男たちに女たちは、恋人への貞節を守ると言い放ちます。フェランドは、〈いとしい女の愛のそよ風は〉と、自分へのゆるぎない愛に安堵感を覚えます。しかし女たちは、デスピーナにもっと自由にとそそのかされ、度重なる熱烈な求愛に次第に傾き、最初にドラベッラが落ちます。フィオルディリージは〈恋人よ、ゆるしてください〉と、心の葛藤を歌い、まだ踏みとどまっていますが結局、新しい男に心を許し…、〈もうすぐ腕に抱かれて〉と愛の二重唱を歌います。落胆する男たちにドン・アルフォンソは、「女はみなこうしたもの!」と諭します。新しいカップルの結婚式に、元の恋人たちが現れ、さあ大変。結局は、ドン・アルフォンソの仕組んだこと、とわかり、女たちの心変わり腹を立てていた男たちも、彼女たちの謝罪を受け入れ、ももとのカップル同士、元の鞘におさまリ、幕を閉じます。



2006/1/27 静岡音楽館AOI

おながく・徒然

ザッハ・トルテ
Sachertorte

音楽とお菓子のあまーい関係

映画「アマデウス」のなかで、舞踏会の途中、サリエリが、おいしそうなケーキをつまみ食いつているシーンがある。音楽の都ウィーンは、おいしいケーキも豊富。中でもウィーンのケーキの代表格はザッハ・トルテ。シュターツオペラ・国立歌劇場の後ろに、数本の国旗を掲げたホテル・ザッハがある。ザッハ・トルテはこのホテルの名前を冠にしたチョコレートケーキ。艶やかなチョコレート・コーティングの部分は、口に入れると意外にザラッとしている。これは甘み部分が再結晶化したものだという。内側はチョコレート味のスポンジでアプリコットのジャムがサンドされている。たっぷりと添えられている白いクリームは、砂糖を加えてない甘さなしの生クリーム。ケーキ自体がとても甘いのでクリームとちょうどよいハーモニー調和を生み出す。

*オーストリア政府観光協会のHPにウィーンのコーヒーやケーキについて情報があります。
<http://www.austria.info/>

3/2 [日]

平成19年度 静岡音楽館倶楽部 会員特別コンサート

高木綾子(フルート) 曾根麻矢子(チェンバロ)
デュオ・コンサートチケッを買うだけではもったいない。
1年に1回限りのチャンス!

その美しすぎる容姿、高い演奏評価から、今やマスメディアに引張り風の高木綾子、さらに、エラート・レーベルで、フランス初の日本人専属アーティストとなった、国際的チェンバロ奏者、曾根麻矢子の二人が一挙登場。こんな魅力的なコンサートへ、会員の皆様には日頃の感謝の気持ちを込めて、無料ご招待。「えっ?会員でないと聴けないの?」いいえ、どなたでも大丈夫(一般販売価格:2,000円)。でも、ちょっと待って!同じ金額で、静岡音楽館倶楽部にも入会できますよ。「気になっているんだけど、いつも入る機会を逃して…」というあなたは、特に注目。早く入った人から得をする、この絶好の機会を見逃さないで! 詳しくはAOIへお気軽にどうぞ。



お友達にもおしえてあげたい!

[期間限定]平成20年度 静岡音楽館倶楽部会員
ご入会キャンペーン 平成20年1/5 [土]~3/1 [土]1月~翌年3月の15ヵ月分で(3ヵ月分もおトク!)
今ならなんと、2,000円!!

今ならもれなくもらえるプレゼント

特典1 平成19年度静岡音楽館倶楽部会員特別コンサート
高木綾子(フルート) 曾根麻矢子(チェンバロ)
デュオ・コンサート 無料ご招待!!特典2 ドリンクチケット
プレゼント!ご利用してますか!
特典いろいろ

- チケット10%OFF
- チケット優先予約
- ドリンク無料サービス(年3回程度)
- 一流アーティストによる、会員特別コンサートへ無料ご招待
- リザーブシートサービス!
- 静岡音楽館倶楽部情報誌「AOI通信」など、公演情報の無料送付
- オリジナル・メンバーズカードの発行
- AOI 以外でも特典が…!
すみや(CD、DVD等割引サービス)
静岡アートギャラリー・ポーラ美術館(入場料金割引)
静岡市立芹沢註介美術館(抽選でチケットプレゼント)

※これらの特典は静岡音楽館AOI主催コンサートが対象です。

※割引・優先予約は静岡音楽館AOIのみでお取扱いします。

- 個人年会費 2,000円
- 法人年会費 10,000円(1口)
- ※通常会員有効期間(4月1日~翌年3月31日)

静岡音楽館AOIで繰り広げられるコンサートは、世界中どこを探しても見ることもできない一点ものばかり。国内最高レベルの音響効果を誇るホールで聴く、至福の室内楽。わざわざ遠くへ出かけなくても、手軽に贅沢気分を味わえます。ちょっとおしゃれをして出かければ、日々の生活に余裕が生まれて、気分もリフレッシュ。「初心者なので、どのコンサートに行ったらいいのかわからない…。」という方は、お気軽にご相談ください。「音のソムリエ」とも言うべきスタッフ陣が、丁寧にお答えします。



1/9 [水] オーケストラを聴こう

ニューイヤー・モーツァルト・ガラ・コンサート

新年の幕開を華やかに。
幸せな一年をここからはじめよう。

「ガラ・コンサート」とは、特別企画、豪華演奏会のこと。このコンサートもAOIだけで1回限り行われるものだというから、希少価値が高い。曲は、「日本人が好きな作曲家」ベスト3の常連、モーツァルトをたっぷり。ソリストも驚くほどの一流ばかり。舞台いっぱい広がる夢の世界。初心者の方には、ぜひオススメ。老若男女問わず楽しめる、こんな素敵なコンサートにおしゃれをして出かければ、きっと幸せな一年が訪れますよ。



2/13 [水] シリーズ・若い翼

趙静(チェロ) × 松本和将(ピアノ)
デュオ・リサイタル業界から熱い注目を浴びる、
話題の新人が一挙登場。

AOIでは、野平一郎芸術監督の意向のもと、若く有能な芸術家を積極的に皆さまにご紹介。今回は、まだ30歳前の若手ながら、着実に基盤を築いている名実ともに確かな二人が一挙登場。まずは、趙静。中国の広大な大地を思わせる、大陸的な大きさと、のびやかさが特徴的。もう一方は、ピアニストでありながら、秀才かつ多才、クラシック以外のことも器用にこなす松本和将。温厚な人柄が滲み出ている音楽性豊かな演奏に定評あり。かねてより共演を重ねている二人の、息の合った、今しか聴けないフレッシュ、かつエネルギーに満ちた演奏に期待大。



3/20 [木・祝]

野平一郎 plays
平均律クラヴィア曲集野平一郎 vs J.S. バッハ
「この作品は、野平一郎さんの
ような演奏家を待っているのだ。」
(磯山雅)

ピアノを習う者には、いつかは訪れる《平均律》への挑戦。バッハが息子のために作曲したとされる練習曲でありながら、非常に美しく、難易度の高い、音楽史上最も重要な作品群。「旧約聖書」といわれるこの世界遺産的大曲に野平一郎が挑む。ただの「演奏」ではなく、作曲家だからこそできる視点から、いままでになく、この時代だからこそできる音響として聴かせる。使用する楽器は、ピアノ、チェンバロ、そして、コンサート開催要望の多いオルガン。野平一郎の偉大さを、今改めて説明する必要もなからうが、あまりに素晴らしすぎる!

クロード・ドラングル サクソフォン・ライブ "Quest"

11/23 [金・祝]

Re
view

三輪眞弘

(作曲家、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー教授)



「気合いの入った」コンサートに立ち会うのは何と楽しいことだろう!...ドラングルの「サクソフォン・ライブ」を聴き終えてまずそう感じた。それは何より、誰もが認めるドラングルの緻密かつ変幻自在な演奏についてではあるが、また周到に計算された舞台の作り方や最新のテクノロジーを駆使した音響システムのレベルの高さのことでもある。海外の現代音楽を順番に紹介して「評価はおまかせ」というような姿勢ではなく、高い音楽そのものの質によって観客を必ず満足させてみせるぞ!という自信と気迫のようなものが会場全体にみなぎっていた。「このコンサートには休憩がありません」という断りが何度かアナウンスされてから演奏がはじまった。黒い雨合羽(のような衣装)をまとったドラングルが暗闇から浮かび上がる。まず現代の古典、G.シュルシの独奏曲《3つの小品》の神秘的な響きから始まり、間をあけずにP.ジェドロフスキ、L.ナオン、G.スピロプロスの、いずれも電子音響を伴うテナーとソプラノ・サクソフォンのための独奏作品を交互に、ドラングルは舞台上の立ち位置を変えながら演奏していった。いずれも暗いスポットライトの下での非常に集中力のある演奏で、譜面台を置かず、これらの難曲をまるで暗譜で(現代音楽では通常不可能なことだ)演奏しているように見えて驚いたのだが、実は足下におかれていた発光するモニター・ディスプレイに楽譜が表示されていたらしい。その後からは、世界各地でよく演奏

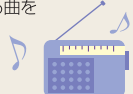
されるJ.t.フェルドハウスの作品を除いて、すべて世界または日本初演作品が並ぶ。中でも静岡音楽館AOI委嘱作品でもあるM.ストロッパの《... of Silence》は、作曲者の言葉で「音楽的なパートナー」としての、舞台上に積み上げられたスピーカーシステムにドラングルが身を隠すような形で演奏が始まり、生演奏とエレクトロニクスの未分化な響きが演奏者の移動と共に時々刻々と変化した。作曲者がインスパイアされたというカミングスの詩を、会場全体を包み込む音響そのものとして感じるような体験だった。一方、この日のプログラムではさらに日本人の若手サクソフォニスト四人が加わり、唯一の日本人作曲家である鈴木純明の作品《風》また、ドラングル氏自身の作品《ア라운드》(世界初演)が日本初演された。この《ア라운드》は、亡きL.ベリオへのオマージュとして彼の代表作《セクエンツァ》を時間的にも空間的にも拡張したものであった。これらの「純粋な」アンサンブル作品を聴いて改めて気付かされたことは、電子的な音響を伴った他の作品とのギャップがない、つまり最新のコンピュータ技術を駆使しているものも、そうでないものも、「音楽」として変わりなく楽しめたことだ。テクノロジーを使うことに特別な意識を持つ時代が終わり、「コンピュータ音楽」と特別に呼ばれてきた音楽が、そしてその中心的な役割を果たしてきたIRCAMが今、次の時代を迎えていることを実感させたコンサートだった。

AOIのラジオファンが増えています。

静岡音楽館AOIクラシック・ギャラリー

K-MIX (静岡79.2MHz、浜松78.4MHz)
毎週日曜日 17:55~18:00

K-MIX 人気パーソナリティ 廣木弓子が、コンサートシリーズで演奏される曲をちょっとだけご紹介。コンサートへの楽しみがますますUP。



静岡音楽館倶楽部
会員の皆様へ

平成20年度以降の退会のご連絡は、平成20年2月29日までにお願いします。期日までにご連絡いただけない場合は、自動更新となりますので、ご了承ください。尚、お名前、ご住所、銀行口座等の変更は、随時静岡音楽館倶楽部事務局までご連絡ください。

Encore!

AOIのコンサートで演奏されたアンコール曲をご紹介します



10/12(金)

シェフ池田のおいしい歌はいかが

J.シュトラウス: 喜歌劇《こうもり》より《運がはけりや》
F.ロウ: ミュージカル《マイ・フェア・レディ》より
《踊り明かそう》

10/31(水) 小川典子 ピアノ・リサイタル

C.ドビュッシー: 《ベルガマスク組曲》より《月の光》
M.ラヴェル: 組曲《鏡》より《悲しい鳥》



CONCERT HALL SHIZUOKA

ここに響く

静岡音楽館 AOI

お問合せ... ☎(054) 251-2200

9:00~21:30 (遅い時間でもチケットをお求めいただけます)
月曜日休館 (ただし祝日開館、翌日休館)・年末年始休館日12/28~1/4
〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9
E-mail: info@aoi.shizuoka-city.or.jp URL: http://www.aoi.shizuoka-city.or.jp

静岡音楽館倶楽部法人会員(2007年11月末日現在)

かわした歯科クリニック/コカ・コーラ セントラル ジャパン(株) 静岡支店
(株) サンタモニコーポレーション/静岡ガス(株) 音楽部/静岡ターミナルホテル(株)
鍼灸・指圧 六番町めちくし/ (株) タミヤ/ (株) 竹酔/三菱電機(株) 静岡製作所(50音順)

特別協賛

静岡信用金庫



スター精密株式会社

.....わたしたちは静岡音楽館AOI「コンサートシリーズ」を応援しています。.....

